

第 2 回検討会に向けたアドバイザーのご意見

平成 29 年 3 月

東京工業大学 環境・社会工学院 教授

中井検裕アドバイザー

1 モデル地区①（富山）に関するご意見

- ・土地利用のゾーニングについては、機能別の土地利用の配置だけでなく、動線もある程度加味した方がよい。
- ・新駅を造るということであれば、駅西側の現況の土地利用も考慮し、関連付けした方がよい。
- ・県有地北側は、細長い形状であり、ここに道路を建設すればさらに細くなるため、業務系の土地利用（立地）は難しい。住宅、駐車場などの配置が考えられるが、駅に近い側の半分程度は、（案 2' にある）パークアンドライド駐車場がよい。
- ・駅前を住居系の土地利用とする可能性はあるが、それだけでは良くない。最低限、生活に必要なスーパー、銀行、郵便局や、できれば医療なども少しは必要。
- ・（案 2' の）県有地南側に配置する「日常生活に必要な都市機能」の範囲は、配置する都市機能の規模を考えると、沿道程度が相当と思われる。
- ・駅周辺の整備を急ぐのであれば、産業系は、行政側が主導して誘致する必要もあると考える。
- ・外からの集客を見込む大規模商業施設のような機能は、可能性のある用途の一つではあるが、ここでは日常生活に必要な商業機能が適しているのではないかと考える。
- ・隣の駅が富山駅という立地条件からすれば、本当に大きな都市機能は富山駅周辺が担うことになる。この駅は広域といっても半径 1 km くらいで考えることが相当であり、その範囲で必要な施設、例えば高齢者のための施設が考えられる。
- ・また、市の中心部には配置が困難な公共施設などの配置が考えられる。このような施設は、集客も見込め、鉄道利用もしやすい。

2 モデル地区②（高岡）に関するご意見

- ・当地区における考え方は、基本的に事務局案でよいと思う。
- ・この時代に使い捨ての住宅地を造っても仕方がない。住宅数は足りているし、空き家もたくさんある中で、新たに住宅地を造るのだから、ストックとして残る良好な住宅地を造ることが重要。
- ・基本的には住宅以外は考えにくい区域だが、駅を中心に生活サービス（「日常生活に必要な都市機能」）があるという形が望ましい。

3 モデル地区③（射水）に関するご意見

- ・各地区において考え得る都市機能は、概ね事務局案のとおりと考える。
- ・良好な道路網が形成されている地区であるが、インターパーク周辺や J E T 跡地周辺、既存の公園・大学・研究所・住宅団地等のそれぞれの地区を相互に結ぶ移動手段として、バスなどの公共交通をどのように考えていくのかという観点も必要である。

4 持続可能な住宅地の形成に関するご意見

- ・新しく入居する世代が子供を伴ってくるならば、持続性ができる。そういう意味で学校、教育施設が重要である。特色のある学校があれば、地域が良くなるし、人も入ってくる。